

# アジ研ってこんなところ

研究者にとって仕事の環境はとても重要です。ここでは、  
私たちが働いているアジ研の建物と周辺環境をご紹介します。



1999年に千葉市の幕張新都心に竣工したアジア経済研究所の建物は、2000年に「千葉県建築文化賞」と「千葉市優秀建築賞」を受賞。その理由は、斬新なデザインと当時最先端だった環境配慮システムでした。もともと千葉県の指定する「文教地区」に立地していたアジ研ですが、2010年以降は周辺に高層マンションや商業施設も見られるようになりました。

## 表札

Q: 正面入り口の表札はいつ誰が書いたの？

A: 1998年に小淵恵三内閣で通商産業大臣をつとめた与謝野馨氏によるもの。幕張への移転準備を行っている1998年当時、JETRO理事長であった畠山襄氏が、通商産業大臣であった与謝野馨氏に面会した際に依頼し、揮毫いただいた。

JETRO 株式会社 日本経済振興機構  
アジア経済研究所  
INSTITUTE OF DEVELOPING ECONOMIES

教えて！いつも気になっていたアレ

## オブジェ

Q: 正面入口にある黄色のオブジェには、どのような意味があるの？

A: 英国と日本で活躍する建築家・彫刻家である川上喜三郎氏による「CHANNEL」という作品。このオブジェのコンセプトについて本人が綴った以下のメモが残っている。

「CHANNEL」は水路、交通網など物流の動脈と同時に、固有の周波数による情報の通信、伝達を意味する言葉である。このプロポーザルでは、人、物そして情報の行き交い、通信などを抽象的に表現するものである。直線によるスリット（長い切り口）と円弧状のスラット（細長い帯）の組み合わせで各固有の通信、交遊を視覚化し、それらの集合体としての複層する連鎖、相互関係、さらには響きなど、このアジア経済研究所の活動が第一のテーマである。スリットを通して隣接する個体が透けて見える。スリットを通して光が隣接する個体に光を投射する。スリット相互の配列は各個体の関係をさらに強くする。さまざまな円弧状スラットは、リズムに配列され、複合体としてのダイナミズムが生まれる。スリット、スラット、インタープレイ。建物から受けるイメージ、キューブそしてその組み合わせ、随所に見える円弧のデザインモチーフなど、このアートの第二のテーマである。

川上 喜三郎 LONDON 14th Dec. '98

## アジ研周辺の移り変わり

### 1999年 幕張移転

幕張新都心計画の一環で移転したアジ研は、学術機関の集まるエリアに拠点を構えることになった。移転当初は、廃校になった高校跡がすぐそばにあった。

### 2011年 東日本大震災

東日本大震災で、埋立地であるアジ研周辺では液状化現象による地面のゆがみが各所で見られた。

## 上水供給システム

水道水は、本館地下にある檜の樽に18 m<sup>3</sup>の水を貯蓄して供給しています。最近は薄れてきていますが、新築当初はほんのりと檜の香りがしており、ウィスキーの水割りを作ったら美味しいだろうと思ったものです。樽には仕切弁が設置されており、断水することなく交互に樽内の清掃が可能となっています。



## 蓄熱による冷暖房設備

メインの冷暖房設備は、本館地下に設置されている1300 m<sup>3</sup>のプールの水を冷房時には6℃前後、暖房時には45℃前後に蓄熱し、その水を館内に循環させて行っています。蓄熱は夜間の安価な電力を使用しており、環境にやさしいシステムとされています。東京スカイツリーなどでも同様のシステムで冷暖房を行っているようです。



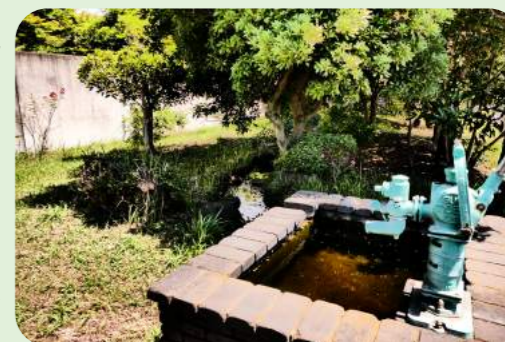
## 雨水と地下水の有効活用

庁舎管理担当者に聞きました。  
ここに注目！幕張庁舎の  
3つのポイント



庁舎管理担当 U氏

トイレの排水には屋上から貯めた雨水と建築時に発掘された地下水を汲み上げて活用しています。地下水発掘場所はインターナショナルスクール側にあり、「哲学の池」も設置されています。これらの水が枯渇した場合は、上水が補給されるシステムですが、移転以降、補給の実績はなく、トイレの排水は全て雨水と地下水で賄われています。



現在の幕張新都心では、従来の枠を超えてさまざまなジャンルが隣接、融合するようになった。研究所の周辺にも、マンションや商業施設が新設され始めている。

### 2021年 現在